

# かながわの

# 2018

# 学びづくりプラン

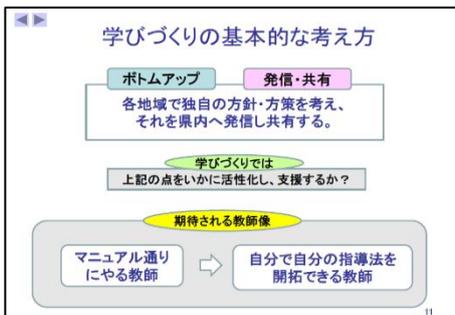
「かながわ学びづくり推進地域研究委託事業」は、11年目を迎えました。平成29年度のシンポジウムでは、学校研究の中心的な役割を担う研究主任の先生方にスポットを当てて、各学校において、先生方が主体的に、活発な授業研究を進めていくための工夫や苦労などを、共有しました。

## 基調講演「これからの学力、これからのかながわの学びづくり」

横浜国立大学の池田敏和教授は、基調講演の中で、「これからのかながわの学びづくり」について、次のように整理されました。

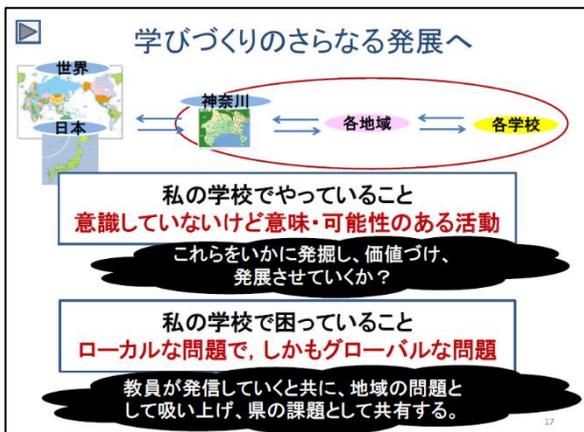
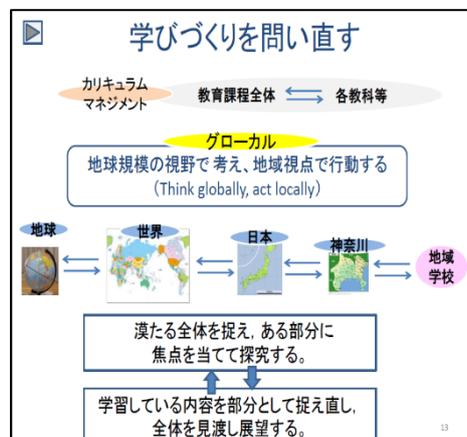


横浜国立大学  
池田 敏和 教授



■「かながわの学びづくり」は、各地域で独自の方針、方策を考え、それを県内へ発信・共有する形（「ボトムアップ」、「発信・共有」）で発展してきた。これからはそれをいかに活性化し支援するか、というところが大切になる。

■その中で期待されるのは「マニュアル通りにやる教師」ではなく、「自分で自分の指導法を開拓できる教師」である。例えば、一つの教材に対しての捉え方が教員によって異なることを前提として授業づくりを行う。すると、その「違い」から議論が生まれ、次の一步を模索することとなる。これが、「自己の中に価値が見出され、自分自身の問いを基に試行錯誤している状態」であり、教師が自分で自分を成長させるための力につながっていくと考える。



■さらなる発展へ向けて大切なことは、「自分の学校でやっていることで、意識していないけれど意味・可能性のある活動」を意識して発掘し、価値づけ、発展させていくこと、「自分の学校で困っていること（ローカルな問題でしかもグローバルな問題）」を教員が発信していくとともに地域の問題として吸い上げ、県の課題として共有することである。

# 「自分の思いや考えを伝え合い、学ぶ子どもたちの育成」

～ 秦野市立本町小学校の発表より ～

## ☆ 風通しの良い職場環境、児童理解に基づく授業づくり！

### 子どもの考えを事前に把握し、活躍する場面を作る

#### 1 テーマに迫るための手立て

##### (1) 具体的な子どもの姿の設定 (めざす子どもの姿)

→発達の段階に応じて「自分の考えや思いを伝え合い、学ぶ子どもたち」の具体的な姿の設定。

##### 自分の考えを伝えたい時

- ・学習課題に興味・関心が芽生えた時
- ・学習課題に取り組む切実感・必要感が生まれた時
- ・自分と他者との考えに「ずれ」が生まれた時



##### 伝え合い、学ぶ姿

- ・自分の考えを持ち、書くこと、話すことを通して他者に伝えている姿
- ・他者との考えの違いを比べ、考えを広げ深めている姿
- ・他者の意見を基に、考えを再構築し、新しい考えを生み出している姿

##### (2) 教員の意識向上及び指導における共通理解

###### ○話し合い、学ぶ教員

→児童の実態や付けたい力をもとに指導方法を話し合う。

###### ○意識する教員

→「自分の思いや考えを伝え合い、学ぶ子」の具体的な姿 (付けたい力) の共通理解。

###### ○子ども同士をつなぐコーディネーター&アンテナを張る教員

→ノート等を活用し、事前に児童の考えを見取って把握しておく。

☆今日のヒーロー&ヒロインを生み出す教師の働き

#### 2 成果と課題

##### (1) 成果

###### 【子どもの変容】

###### ○国語好きの児童が増えた。

→「物語を読みたい!」「国語の勉強をしたい!」

###### ○自分の考えを話すこと、話し合うことが好きな子が増えた。

###### ○授業時間以外に国語の話をする子が増えた。

→休み時間に教師や学校長と、家で家族と、国語の授業で扱った課題について話し合う。

###### ○表情や発言内容が変わった。

→生き生きとした眼、叙述や資料を根拠とした発言、他者の考えを受けての発言 など。

###### 【教師の変容】

###### ○子どもを具体的にほめられるようになってきた。

→事前にノートを集めて子どもの考えを把握しておき、授業に発言させる等して、授業中に子どもが活躍する場面を意図的に設けることで、具体的かつ適切に子どもをほめられるようになった。

###### ○職員室で、子どもの名前が多く出るようになった。

→授業で活躍した児童のことを話したくてたまらない教師集団の形成。

###### ○教材分析力 (教材を読む力) がついてきた。

→付けたい力を身に付けさせるため1つの教材のみで満足しない (主教材と副教材の考え方)。

###### ○ものの考え方、新しい視点を習得。

→教材に対する考え方、子どもとのキャッチボールの必要性、授業時の教師の役割 (子どもが主役)。

##### (2) 今後に向けて (課題)

###### ○毎年職員が入れ替わる状況の中で、研究をどう積み上げていくか。

###### ○多忙な教員の仕事量・時間数の中で校内研究をどのように進めていくのか。

###### ○教員のモチベーションをどう継続していくか。

☆実践報告会・自主研修会の実施

☆校長レポート (授業参観と授業の評価)

##### パネルディスカッションより

若手が「次やります。」と積極的に公開授業に取り組む姿に影響を受け、ベテランも手を挙げています。先生方の意欲が高まっています。職員室での職員の会話が、子どものことや授業のことになってきました。

☆ 具体的な目標を決め教職員全員で理解・納得し、チームで取り組む！

授業研究は生徒指導の1つの手立て

1 目指す生徒の姿(教師の願い)

- やらなければならないことだけではなく、自ら考え発展させて主体的に行動するようになってほしい。
- 話し合いのときには、根拠を持って発信したり、あたたかな気持ちで他者の意見を取り入れたりして、考えを深めてほしい。
- わからないことは何か、自分が学べたことは何なのか、それが将来にどうつながるか、を自分の言葉で表現できるようになってほしい。

2 現状の改善のために

(1) 本質的な課題を理解して、その解決に向けた具体的な取組を行う。

- ・教科を越えた協働、学校をあげて取り組む授業改善
- ・単元指導案の作成(単元を見通した授業の構築)
- ・研究推進だよりの発行

(2) 「生徒が主役の授業づくり」を実現するための取組を行う。

- ・年5回の公開授業→3つのグループによるグループ研究会
- ・きく・話す一覧表の活用
- ・授業改善シート、授業づくり十カ条への取組
- ・個人目標「私の決意」の設定
- ・学習アンケートの実施
- ・グループ学習を越えた、ペア学習へ
- ・生徒インタビューの実施
- ・少人数での研究協議の実施

パネルディスカッションより

学級活動で子どもたちに「明日、研究授業あるから、よろしくね。」と伝えたら、「先生たちも勉強しなきゃいけないだね。」と言われました。子どもたちにかく『浜須賀中の先生たちが頑張っている』、『授業に対して本気になっている』ということが伝わっているんだと嬉しく思いました。

3 成果と課題

(1) 成果

【教師の変容】

- 単元を見通した指導や評価規準に基づいたためあての設定、評価時期や評価方法について意識できた。
- チームで授業をつくる意識が高まった。

【生徒の変容】

- 仲間の意見を最後まで聞くことができるようになった。(うなずき、「なんで?」、「わからない」)
- 交流のある授業から、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるようになった。
- 根拠を明らかにして説明できるようになった。
- 話し合う活動が自分にとってためになる、と思う生徒が増えた。

(2) 今後に向けて

- 提案授業研究を重ねていくごとに、自分の授業の「強み」や「課題」が明確になり、次につながるような連続性のある研究協議にする。
- 提案授業から全員が学び、授業改善に生かしていく。
- 「若手が育つ場にする」と同時に、みんなでレベルアップしていく。チームで動く。
- 校内研究は、「積極的な生徒指導のひとつの手立て」として捉える。
- 「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を目指す。
- 教師自身が授業や研究を楽しむ。

パネルディスカッションより (横浜国立大学 青山 浩之 教授)

学びづくりで、学校に入ると、様々な成長の姿を見ることができます。先生方の頑張る姿や、学校が明るくなっていく様子が見られてよかったと思うことが、今年度も幾度もありました。

## 子どもたちの現状把握 ～全国学力・学習状況調査の活用～

校内研究を進めていくにあたり、子どもたちの現状を把握するための手段の一つとして、全国学力・学習状況調査があります。神奈川県では、県での全国学力学習状況調査の分析を踏まえ、「強み」を生かし「課題」を改善するために、必要と考えられる取組み等を改めて「学びの充実ポイント」として示しています。

- ① 「主体的・対話的で深い学び」の視点から、学校全体での授業づくりをより充実させましょう。
  - ・学級やグループ、ペア等で話し合う時間を適切に設ける指導の工夫
  - ・教員自らが意欲的に取り組めるような校内研究の実施 等
- ② 児童・生徒一人ひとりの学習上の困難さを的確に捉え、個に応じた指導法を工夫しましょう。
  - ・障害に関する知識や配慮等についての正しい理解と認識を深めて授業改善に生かす取組
  - ・児童・生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教える取組 等
- ③ 児童・生徒の視点に立った授業づくり、学校づくりを、家庭・地域とともに進めましょう。
  - ・一人ひとりのよい点や可能性を見つけ、肯定的にとらえる視点をもった指導
  - ・家庭・地域との協働による教育活動の実施、「いのちの授業」の充実 等
- ④ 自校の調査結果を学校全体で有効に活用しましょう。
  - ・自校の結果を分析し、教職員全員で自校の強みや課題、児童・生徒に付けたい力などを共有する取組
  - ・分析を基に学校全体で具体的な教育活動の改善につなげる取組 等

[参考 神奈川県ホームページ [www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/prs/r5658243.html](http://www.pref.kanagawa.jp/docs/v3p/prs/r5658243.html)]

ポイントの④にもある通り、自校の調査結果を、調査対象学年・教科だけでなく全教職員で分析・検証する中で、自校の強みや課題、児童・生徒に今後求められる資質・能力等を明確化し、共有することは、児童・生徒を中心に据えたカリキュラム・マネジメントに欠かせません。各学校において、学校教育目標の実現に向け、PDCAサイクルの中に全国学力・学習状況調査の分析を位置づけることが重要です。また、よりよい学校教育を創るために結果を保護者や地域の人たちに公表し、協働して教育活動を進めていきたいと思います。

### 校内研修等での取組例

#### ◇全国学力・学習状況調査の問題を解く

職員全員で、あるいは保護者や地域の人とともに、問題を解いてみることで、今大切な学力とは何か、実感することができます。

#### ◇自校採点による児童・生徒の知識・理解の状況の把握

一人ひとりの児童・生徒の学習状況を知ることで、いち早く授業改善に生かすことができます。

#### ◇全国学力・学習状況調査の自校の結果を分析し、学校の教職員全員で共有する

課題を共通認識し、組織としての改善方策を立案・実施することができるとともに、校内研修にいかすことができます。

#### ◇授業アイデア例等の活用した授業づくり

国立教育政策研究所のホームページには、課題を解決するための授業アイデア例が平成21年から掲載されています。「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業づくりの参考にもなります。

[参考：授業アイデア例ホームページ <http://www.nier.go.jp/jugyourei/>]